

オバマ大統領、ミシェル夫人と2人の子供たちが就任式を迎え、ホワイトハウスに入るまでの2週間をワシントン中心部にある老舗ホテルに宿泊していた。それが「The Hay-Adams」である。これほどの名門ホテルが日本ではほとんど知られてはおらず、GMクラスのホテルエでも十分な情報を持ち合わせていない。

実は大変な名声と評価を持ち合わせた全米でも屈指の名門ホテルなのである。既に多くのアワードを受賞しているが、つい最近では世界をリードするラグジュアリー・トラベルネットワークのVirtuoso社による「Best of the Best」Hotel Awardsで、世界のラグジュアリーホテル900軒の中で最終候補の50ホテルの一つに選出された。これは全米でもヘイ・アダムスが唯一のホテルという快挙である。

歴史的にも非常に興味深いものがあり、ホテルの名前は19世紀にこの場所にあった旧邸宅に住んでいた2人の著名人にちなんでいる。1人はエイブラハム・リンカーンの私設秘書で、後に國務長官になったジョン・ヘイ。もう1人はジョン・アダムスとジョン・クインシー・アダムス両大統領の子孫となる作家のヘンリー・アダムスで、2人の名を冠して名付けられた。

ヘイ・アダムスの持ち味はその恵まれた立地条件である。美しいラファイエット広場に隣接し、その向こうに大統領官邸「ホワイトハウス」をお部屋から望めるといふ、首都唯一の贅沢なロケーションに建つホテルである。官邸の警備上、ホワイトハウスビューの客室は限られ、特に筆者の宿泊した9月上旬は例の「9・11」の10周年行事の数日前ということでの心配したが、予約していた真正面のお部屋のさらに上層階をアサインしていただいた。

ヘイ・アダムス最大の評価はアットホームな卓越したホスピタリティと言える。実はこのホテルの社長は榎戸かし代さんという日本女性で、彼女流のきめ細やかなサービスを心掛けている。また、副社長のミオコ・ミラー氏とGMのハンス・ブルラント氏が榎戸女史を補佐する体制で理想的なマネージメントを実践している。20のスイートを含む全145の客室を擁し、メインダイニングの「The Lafayette」、メインバーの「Off The Record」、ウエディング等のファンクショナルーム「Top of the Hay」、ビジネスセンター、トレーニングジムなど施設は充実している。

驚いたのは宿泊時にウエディング・レセプションが3組もあったことだ。日本と違いホテルで披露宴パーティーという習慣があまりない米国では傑出である。またワシントンDCではアフタヌーンティーをたしなむことはまれであるが、ここの「The Lafayette」では予約が集中するという。すぐ目の前にある聖ヨハネ教会「St. John's Church」は、歴代の大統領が礼拝をして来た由緒ある教会である。このように地元セレブリティが集まる立地と各国大使や政治家、その夫人たち、各国エリートビジネスマン等の顧客層がこのホテルの重要なアンピアンスを支えている。



トップフロアにある「Top of the Hay」のルーフトラスから俯瞰したホワイトハウス全景



メインバー「Off The Record」。バー内部には歴代大統領の風刺画調の似顔絵が掛けられている



客室に向かう途中にあった昔のU.S. Mailの差し出し口ポスト。クラシカルな電話と相まって思わずホッと和む空間である



「Top of the Hay」のウエディング・レセプションのセッティング。右側テーブルの奥にホワイトハウスが望める



決して広くはないが、客室インテリアを知り尽くした豪華な内装である。特筆すべきはベッドリネンで、ワッフル編みの肌掛けがベッドに装備され、ゲストの好みで畳んであるダウンを使用する



The Hay-Adamsを代表するホワイトハウスを真正面から眺める客室。まさにこの部屋だけに与えられた特権である

# ザ・ヘイ・アダムス The Hay-Adams

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテルエが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままを撮ってきた写真を掲載する。

※本連載は毎月2・4週号掲載



The Hay-Adamsの正面ファサード。手前の16thストリートを挟んで聖ヨハネ教会「St. John's Church」と向き合っている



正面エントランスの俯瞰。ロビーは深い木目の重厚な雰囲気と、高い天井には美しい装飾とシャンデリアが目玉。常時、正装したスタッフが待機してゲストを迎え入れる



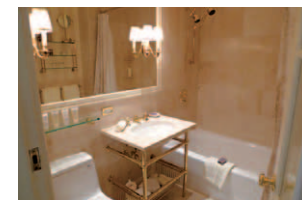
メインダイニングの「The Lafayette」のコーナー部分において。左から筆者、榎戸女史、GMのハンス・ブルラント氏



夕暮れ時、照明が点灯された正面玄関車寄せ。20のスイートを含む全145室を擁する建物だが、ホテルというよりは外国大使公邸といった優雅なたたずまいである



コンシェルジュデスクの前で、左からオフィスマネージャーとチーフコンシェルジュ



古い建物なので廊下の一部がエレベーターホールになっている。狭いながらも気品に満ちたレイアウトである



大型のミラーと直接取り付けられたかわいいシャンデリアが広さと豪華さを演出。洗面テーブルもクラシカルで秀逸だ

筆者 小原康裕

ホテルジャーナリスト。慶応義塾大学法学部法律学科卒。74年Munich Re入社。85年築地原健株代表取締役。2001年投資顧問会社原健設立、代表取締役CEO。  
※現在、著者のホームページで「世界のリーディングホテル」を連載中。多くの美しい写真と興味深いコメントで、世界中のホテルとそれ関連都市を紹介。ホテルだけにとどまらず、オリエントエクスプレスなど鉄道関係の掲載、季節刊行で世界遺産の案内などさまざまな情報が得られる。  
www.jhrca.com/worldhotel

